

DOSSIER
DE
PRESSE

2017

extra ARLOS!

Scoop 365°

アルル プレス資料

www.arlestourisme.com



目次

プロヴァンス地方アルルによろこそ.....	3
2017 年最新情報.....	4
数字で見るアルル.....	5
アルル 芸術と歴史の町.....	6 – 7
アルル ミュージアムの町.....	8 – 11
アルル ゴッホの光に包まれた町.....	12
アルル カマルグの中心地	13 – 15
アルル 伝統の町.....	16 – 18
アルル 祭りと文化の町.....	19 – 21
アルル 暮らしのアートが光る町.....	21
2017 年主要イベントカレンダー.....	22 – 23
アルル 経済の町.....	24 – 25
アルルに滞在する.....	26
アクセス.....	27

「アルル 365°」のロゴは、空間(360 度)と時間(365 日)を合わせたものです。このロゴはアルルが闘牛場から円形状に広がる街、太陽と共に太陽のリズムで生きる街、大自然(カマルグ、クロー、アルピーユ山脈)へパノラミックに開かれた街、色彩と祭りと活気の渦に生きる街であり、1 年 365 日、360 度に加えてすべてに違いをもたらす 5 度分の「さらに小さな何か」という雰囲気を持つ街であるということを表現しています。

キャッチフレーズの「エキストラ・アルル」は、さまざまな言語で理解することができる、街の観光プランの特別な側面を強調するものです。

プロヴァンス地方 アルルへようこそ

ブーシュ・デュ・ローヌ県内第 3 の都市アルルは、77,000 ヘクタールの面積を擁し、フランス最大のコミューン(市町村)となっています。しかしここは何よりも「**芸術と歴史の町**」。三つの意味で **UNESCO** の世界遺産と深い関わりをもっています。

- 町にある**ローマ遺跡とロマネスク様式建造物群**が世界遺産に登録されています。
- 世界遺産「**サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路**」を構成しています(「ローマの道」と「エルサレムの道」の一部ともなっています)。「アルルの道」は中世よりフランスおよびヨーロッパを横断してサンティアゴ・デ・コンポステーラへ向かう4本の道の一つでした。
- アルル郊外にある**カマルグ**は世界的にも貴重な自然環境をもち、ユネスコの**生物圏保護区世界ネットワーク**に登録されています。

カマルグはアルル市南部に広がるローヌ河の三角州を指し、ヨーロッパ屈指の美しい自然を誇ります。動植物の楽園でもあるこの地はカマルグ地方自然公園 **Parc naturel régional de Camargue** として保護されており、貴重で豊かな自然に溢れています。

市の北部にはアルル地方第二のものとなるアルピーユ地方自然公園 **Parc naturel régional des Alpilles** が広がっています。農地と地中海地方の森林からなるこの地帯には100種を超える希少種あるいは保護種が生息しています。

アルルの名は今や**ゴッホ**の名前と分かちがたく結びついています。アルル滞在中に彼は生涯でもっとも旺盛な制作活動を行っており、15か月で300点を超える油絵やデッサンを描きました。一方でアルルは、音楽グループのジプシー・キングスやチコ&ザ・ジプシーズ、ファッションデザイナーのクリスチャン・ラクロワ、作家のイヴァン・オドゥアール、写真家のルシアン・クレルグの町でもあり、作家、クリエイター、アーティストにとってインスピレーションを掻き立てる居心地のよい場所となっています。

また、独自の言語、民俗衣装、伝統的な祭りをもつことからアルルは**プロヴァンス文化**の中心地となっています。四季を通じて数多くのイベントが開催されており、**写真、音楽、文学、演劇、闘牛**を愛する人びとを魅了しています。

暮らしやすく、美味しい食べ物と一年を通じて発見に満ちた多様な景観をもつアルルは、南仏の町の典型といえるでしょう。

優れた過去の産物にとどまらず、未来に向けてアルルには意欲的なプロジェクトに事欠きません。2014年のオープニング展覧会では10万6千5百人の入場者を記録したヴィンセント・ヴァン・ゴッホ財団他、工事が進行中です。2018年にはフランス国鉄跡地に、ルマアルル財団のクレーンや重機を用いた実験的文化施設が開館予定です。国立高等写真学校(l'école nationale supérieure de la photographie = ENSP)の新校舎の工事は2017年に開始され、パルク・デ・ザトリエ(Parc des Ateliers) に2018年にオープンします。

アクト・シュド(Actes Sud)のような出版社による、モダニズム芸術、MOPA(元シュパンフォコム、CGアニメ専門学校)によるデジタルなクリエイションを抱えるアルルは、アルル・カロー・カマルグ・モンタニエット大都市圏、プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール地方、フランス、ヨーロッパ、世界の中においてダイナミックな存在意義を発信続けます。

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - f.riou@arlestourisme.com

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

2017 年最新情報

県立古代アルル博物館の企画展

- 2017 年 6 月 30 日～2018 年 1 月 22 日

: 「古代文明におけるラグジュアリー (le Luxe dans l'Antiquité) 」

アルル・ヴァン・セント・ヴァン・ゴッホ財団美術館の企画展

ヴァン・セント・ヴァン・ゴッホ財団美術館は、2014 年 4 月 7 日、レオトー・ド・ドニーヌ邸内の2つのフロアにまたがる 1000 m²以上の展示スペースとともにオープンしました。

2017 年 3 月 4 日から 9 月 17 日まで、「アリス・ニール、モダンライフの画家 Alice NEEL, peintre de la vie moderne 」展 および「平静と高揚。ビュールレ・コレクションのゴッホ Calme et Exaltation. Van Gogh dans la collection Bührle 」展を開催します。

レアチュ美術館の企画展

2017 年 1 月 28 日より 6 月 11 日まで: 「風景の解剖学 - 環境の写真に捧げる展示 Anatomie du paysage - exposition consacrée à la photographie de l'environnement」

2017 年 9 月中旬より 2018 年 1 月中旬まで: 「ジャック・レアチュ、芸術家の夢 Jacques Réattu, un rêve d'artiste」

アルルのフランク・ゲーリー: ル・キャンパス・リュマ・アルル le Campus Luma Arles

リュマ・アルルは、学際的な展示やプロジェクトを発展させるために、さまざまな分野から芸術家、研究者およびクリエイターが結集する新しい実験的な文化の複合施設です。

アルルの歴史地区の南側に位置するこのプロジェクトは、10 ヘクタールにおよぶフランス国鉄 (SNCF)旧作業場の改修工事と、パルク・デ・ザトリエ内のランドスケープ・パークの創設から成ります。

リソースビル (le Bâtiment Ressource) はフランク・ゲーリーの設計です。SNCF の 5 つの古い建物の改修と展示はセルドーフ・アーキテクツが、ランドスケープ・パークはバス・スメットが担当しています。

パルク・デ・ザトリエのリソースビルは 2018 年にオープンします。しかしながら、リュマ・アルルのコアグループとのコラボレーションによって練られた芸術プログラムは、すでに開館しているグランド・ホール La Grande Halle, レ・フォルジュ Les Forges とラ・メカニク・ジェネラル la Mécanique Généraleにて定期的に展示されています。

数字で見るアルル

フランスで最も大きな自治体：77,000 ヘクタール - 人口 52,566 人

ホテルベッド数 3,756 (アトウー・フランスのカテゴリーに基づくホテル) と受け入れ可能数 9,817 人

ホテル数 47 軒、うち 3 軒が 5 つ星ホテル

アルル市内中心部にあるジュール・セザールホテル (le Jules César) とロテル・パルティキュリエ (l'Hôtel Particulier)

カマルグの中心部にあるマ・ド・パンホテル (le Mas de Peint)

854 人を収容できるアパートメントホテル 1 軒

シャムブル・ドットは 250 軒。アルル市内中心部、カマルグ、クロー、アルピーユ山脈に点在しています。

キャンプ場は 5 か所。うち 4 か所は三ツ星です。サイト数 510。

150 軒以上のレストランがあり、うち 2 軒が星を獲得。

- ラ・シャサニェット La Chassagnette d'Armand Arnal
- ラトリエ・ド・ジャン＝リュック・ラバネル L'Atelier de Jea-Luc Rabanel (2009 年よりミシラン三ツ星、レストランガイド『ゴー・ミヨ』で 2012 年より 5 つのコック帽を獲得、2008 年「今年のシェフ」に選出)

フランス人観光客：48 % (プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール地域圏：24%、イル・ド・フランス地方：6%、ローヌ＝アルプス地方：7%等)

外国人観光客：52% (イタリア人：12%、ドイツ人：13 %、アメリカ人：13%、スペイン人：13%、イギリス人：9%、ベルギー人：7%、オランダ人：6%、カナダ人：3%、スイス人：3%、中国人：2%、日本人：1%)

年間約 200 万人の観光客がアルルを訪れています。2015 年には 30 万人が観光施設を訪れ、観光案内所では 18 万 4 千人の観光客をお迎えしました。

アルル 芸術と歴史の町

発掘調査から古代のアルルにはケルト人の集落があり、マッサリア(マルセイユ)にいたギリシア人に植民地化されていたことがわかっています。その後、マッサリアの勢力とローマ帝国のカエサル軍との戦いを通じてこの植民地支配に終止符が打たれました。そしてその時以降(紀元前 46 年～)アルルに大々的な建造物がつくられはじめます。アウグストゥス帝の在位中(紀元前 44 年～紀元 14 年)に町は「*Paterna Arelate Sextanorum*(我が父により建設された植民地)」の名称を授けられました。コンスタンティヌス帝時代には宮殿がつくられ(313 年)、経済的にも文化的にも大きな発展を遂げます。ローマ帝国期にアルルにはおよそ 5 万人が暮らしていたとされています。

アルル市には国が指定した 112 の重要文化財があります。1981 年には市内にあるローマ遺跡とロマネスク様式建造物群が UNESCO の世界遺産に登録されました。その文化遺産の密度の濃さは町の規模や財源をはるかに超えるものですが、それでもサイトのほとんどを市が管理しています。アルルはほかの 30 ほどの都市とともに、ヨーロッパ文化都市協会 *Alliance des Villes Européennes de la Culture (Avec)* のメンバーとなっています。

古代ローマの遺跡

・円形闘技場 l'amphithéâtre

紀元 1 世紀末に建設された 34 列の階段席を擁する巨大な楕円形の施設で、円形闘技場としては世界第 20 位の大きさを誇ります。現在でも 12,000 人弱の観客を収容することができ、毎年、闘牛ショーなどが盛大に開催されています。

・古代劇場 le théâtre antique

円形闘技場の西にあり、紀元前 1 世紀末、アウグストゥス帝の治世下に建設されました。現在でも夏のあいだ、イベントの特別な舞台として利用されています。

・地下回廊とフォロム les cryptoportiques du forum

町の中心地にある壮大な地下回廊で、紀元前 30～20 年に建設されました。

・コンスタンティヌス帝の公衆浴場 les thermes de Constantin

トリニア(ドイツ)にある同帝の大浴場を彷彿させる 4 世紀につくられた建造物です。

・アリスカン les Alyscamps

キリスト教のもっとも美しい墓所の一つです。石棺が並んだその並木道はゴッホの絵によって永遠に人びとの記憶に刻まれることになりました。

ロマネスク様式および古典様式の建造物

・サン・トロフィーム教会 l'église Saint Trophime

7 世紀に建立され、プロヴァンス・ロマネスク建築の特徴を余すところなく備えている教会堂です。正面の扉口はキリストの祝福のもとに行われる最後の審判や、天国と地獄を想起させる素晴らしい彫刻で飾られています。

・サン・トロフィーム教会の回廊 le cloître Saint Trophime

7 世紀に建てられ、その多彩な彫刻と柱頭からプロヴァンス地方を代表する回廊となっています。

・市庁舎 l'Hôtel de Ville

ヴェルサイユ宮殿を設計した建築家ジュール・アルドゥアン＝マンサールの図面をもとに 1657 年にジャック・ペトレによって設計されました。この建物を有名にしているのは、美しい玄関ホールを飾る、他所では見られない扁平な形状をしたロマネスク様式の円天井です。

・歴史ある邸宅

壮大な古代遺跡の陰に埋もれがちですが、アルルには歴史ある壮麗な館が 50 ほど残っており、異彩を放っています。

- グリュ邸 l'hôtel de Grille (17 世紀)
- ゴッホ財団が入っているリュッペ邸 l'hôtel de Luppé
- カスティヨン邸 l'hôtel de Castillon (17 世紀)
- 国立高等写真学校 l'Ecole nationale de la photographie が入っているキ克蘭・ド・ボー
ジュ邸 l'hôtel Quiqueran de Beaujeu
- ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ財団 (la Fondation Vincent van Gogh) のあるガレオー・ド・ドニー
ヌ邸 l'hôtel Léautaud de Donines

・モンマジュール修道院 l'abbaye de Montmajour

アルルの入口、フォンヴィエイユへの道上にある建築学的に比類のないこの一連の建物は、中世時代に沼地の真ん中にベネディクト派の修道士によって建立されました。この修道院には、10 世紀のプレ・ロマネスク様式の建築物、12 世紀の大修道院付属聖堂とロマネスク様式の内庭回廊があり、18 世紀には古典建築のサン＝モール修道会の建物が増築されました。



アルル ミュージアムの町

アルルの美術館や博物館は過去のオブジェや作品を保管するだけにとどまらず、伝統的あるいは現代的で多種多様な映像や表現物を訪れる人に紹介しています。

アルルには注目すべきミュージアムが 4 つあります。

県立古代アルル博物館 LE MUSÉE DEPARTEMENTAL DE L'ARLES ANTIQUE

歴史地区の近く、ローマの円形闘技場跡に建設され、1995年にオープンしました。非常に現代的な建物のなかに入っていますが、収められているのはアルルが誇る考古学のコレクションの数々です。

コレクションはローマ時代の遺物が中心で、彫刻、モザイク、美しい装飾石棺群、多数の工芸品のほか、紀元4世紀のアルルの町並みを再現したレプリカなど壮大な複製品を目にすることができます。博物館の公共スペースはテーマを時系列に追う鑑賞コースを中心に、見学者が館内をめぐりやすいようデザインされています。

アルルの町とそこに暮らした人びと、さらにはこの町の建築物の過去の記憶に触れたいと願う人にとっては必見の博物館であり、アルルの歴史的変遷を理解するためには市内に残る壮大な遺跡とあわせて当博物館を見学することをおすすめします。

2012年には、20年前からローヌ河に考古学者の潜水調査によって発見されたものを中心とした新たな展示がされました。カエサルと思われる大理石やブロンズの豪勢な肖像彫刻や、横顔を刻ませたコインなど重要なものです。

当博物館はコレクションの増加と 2013 年 10 月 4 日に当博物館は 800 m²の新しい翼には、ローヌ河の三角州と地中海の間の航海、河川－海上商業、港やそれらの職業にまつわる展示を開始しました。西暦 50～60 年あたりの全長 31m のローマ時代の平底船 Arles-Rhône 3 の他、480 の展示品が「漂着物」、「港と港で働く人びと」、「アルルとローマ世界の交易および航海」の三つのテーマのもとに紹介されています。

収蔵品保管スペースの創設：トランクタイユの古代の港駅だった場所に立つ建物の2,000m²のスペースは、博物館の至宝を保管するために不可欠な安全と保存の条件を備えたスペースになります。この場所で、ラ・ヴェルリにあるローマ時代のヴィラから2014年夏より定期的に行われている発掘調査で発見されたフレスコ画の断片の再構築が行われます。建物は2017年完成予定です。

博物館の外には、古代ローマのインスピレーションの庭オルテュス Hortusがあります。4月1日～9月30日：10時から19時まで、10月1日～3月31日：10時から17時30まで。入場無料。

Presqu'île du Cirque Romain – 13200 ARLES
☎ 04 13 31 51 03 - www.arles-antique.cg13.fr

レアチュ美術館 LE MUSÉE RÉATTU

ローヌ河のほとりに建つ旧マルタ騎士団修道院の内部に入っている美術館で、17 世紀～19 世紀の美術品、ピカソからの寄贈品（デッサンと絵画）および現代アートの作品が収められています。

特別展（年 3 回ほど開催）、購入品、イベントなどを通じて、美術館は現在、おもに現代のクリエイションを紹介する活動に力を入れています。

1868 年にジャック・レアチュの作品と彼のコレクションを中心に創設された当美術館は第二次世界大戦後、ザッキン、リシエ、そしてとくにはピカソの作品を展示することで現代アートとの関係を深めました。1965 年、写真家のルシアン・クレルグが学芸員のジャン＝モーリス・ルケットに、フランスの美術館では初めての試みとなる写真コレクションの創設を提案しました（オリジナル作品 3,500 点）。

ピカソは 1971 年、当美術館における自身の 2 回目の展覧会を開催したのち、彼の“日記”ともいえる 57 点のデッサンをアルル市に寄贈し、アルルに対する想いを確かなものにしました。

10 rue du Grand Prieuré – 13200 ARLES

☎ 04 90 49 37 58

www.museereattu.arles.fr - musee.reattu@ville-arles.fr

アラタン博物館 LE MUSEON ARLATEN

県立の郷土史博物館で、15 世紀につくられたラヴァル・カステラーヌ邸の内部に入っています。この博物館は 1896 年、愛郷精神に溢れる詩人、フレデリック・ミストラルによって創設され、調度品、道具、信仰や迷信にまつわる品々などを展示し、19 世紀のプロヴァンス人の暮らしを今に伝えています。

時が建物に個性を刻み、100年を経たこの博物館は、いま果敢にも未来を向いています。骨組みだけではなく科学的にも深く掘り下げるという改装の恩恵を受ける時がやってきました。（詳細はこちらをご覧ください：<http://www.museonarlaten.fr/museon/CG13/pid/255>）。ブーシュ・デュ・ローヌ県議会による大工事終了後、改修に使用された道具の数々を展示します。これは、ミストラルの残した遺産だけではなく、当博物館の工事の経過という現代の遺産についても民族誌学と調査収集がもたらした結果からなる博物館学の遍歴です。

今回の改装は、19世紀から受け継いできた民族誌学の博物館から真の社会の博物館への変貌をもたらし、次のように生まれ変わります。

- 集団の記憶を統合し共有するプロセスと社会的事実の分析に不可欠なツール
- 土地のリソースと現代のプロヴァンスの人々の暮らしという今日の記憶を集積する場所
- **2019年春の再オープンまでのあいだ**、「壁の外のアラタン博物館（Museon Arlaten hors les murs）」展と、完成を先取りした「改修後のアラタン博物館（Museon Arlaten rénové）」展 が開催されます。これらの企画展は、文化プログラムと文化の多様性の価値向上のためのアクションという側面だけではなく、一般の人たちのアクセスを広げるための文化的アクションと媒介としての新しいやり方を示すための試みです。（詳細はこちらをご覧ください：<http://www.museonarlaten.fr/museon/CG13/pid/28>）
- さらに、アルルの旧SNCFの車輪作業場は今後芸術作品修復保存研究センター（Centre d'Études, de Restauration et de Conservation des Œuvres, CERCO）に改装され、博物館の保存の中心部として一般公開されます。研究と保存処置が行われるこの場所には、ショップや

講義室、アトリエ、保存室が併設され、冷凍および無酸素による害虫駆除のための部屋も完備されます。詳細はこちらをご覧ください。 : <http://www.museonarlaten.fr/museon/CG13/pid/244>

31 rue de la République - 13200 ARLES

☎ 04 13 31 51 99

museon.arlaten@cq13.fr - www.museonarlaten.fr

カマルグ博物館 LE MUSEE DE LA CAMARGUE

カマルグ自然公園が管理し、マ・デュ・ポン・ド・ルスティの羊舎を改修してつくられたカマルグ博物館は、ローヌ河の三角州における人間の営みの変遷を今に伝えています。

稲作、畜産、狩猟、漁業、塩の精製といった伝統的な産業から、三角州における築堤や揚水施設および灌漑網の整備といった大規模事業に至るカマルグの歴史を紹介し、この地に対するグローバルな視点を見学者に提案しています。全長 3.5km の遊歩道は農地を横切って伸びており、何種類もの土地とその利用法を目にすることができます。

2013 年 2 月、博物館の見学を補完する散策路の入り口に日本人アーティスト、川俣正が手がけた木製の観察タワー「ホライズン」が完成し、稲田や葦沼、塩生植物が生えた草地、湿原などが広がる風景を高所から見晴せるようになりました。

Mas du Pont de Rousty - 13200 ARLES - ☎ 04 90 9710 28 - 📠 04 90 97 19 20

musee@parc-camargue.fr - www.parc-camargue.fr

アルルの歩き方：パス・モニュマン、モバイルアプリ、オーディオガイド

- アルルの史跡やミュージアム見学に便利なパス・モニュマン：
 - パス・アヴァンタージュ： ヴァン・ゴッホ財団美術館を除くすべてのアルルの史跡とミュージアムに入場できるパス。6 か月間有効。
 - パス・リベルテ： アルルの史跡のうち 4 か所とレアチュ美術館のほか、ヴァン・ゴッホ財団美術館を除くミュージアムのうち 1 か所に入場できるパス。1 か月間有効。
- モバイルアプリ：
 - アルル・ツアー Arles Tour： 現地で滞在の手配をするための無料アプリ（場所とアクティビティ、予定、宿泊、レストラン、アクセス、位置情報、コメントなど）
 - モニュメント・トラッカー Monument Tracker： 街発見のための無料アプリ（情報、アクセス、位置情報など）
 - ラリーヴィジット Rallyvisit： 遊びながら街を発見できるアプリ
- オーディオガイド： 観光案内所にて街発見のためのオーディオガイドの貸し出し有り
英語およびフランス語



アルル ゴッホの光に包まれた町

今日、アルルの名はゴッホの名前と分かちがたく結びついています。アルルとこの町に降り注ぐ明るい陽射しを話題にすると、この巨匠の絵を思い浮かべない人はいないでしょう。南仏でゴッホを魅了したのはまさにこの光でした。彼は 1888 年 2 月のある日、屋外の光と内なる啓示を求めてここアルルにやって来ました。そして南仏の光に包まれながら熱にでも浮かされたように制作に没頭する日々が始まります。アルルに滞在した期間は彼にとって生涯でもっとも旺盛な制作活動を行った時期と重なっており、15 か月のあいだに 300 点を超える油絵やデッサンを描きました。これらの作品は絵画史のもっとも輝かしいページを形作っています。

ゴッホのインスピレーションを掻き立てた風景のなかには「夜のカフェ」や施療院の庭（エスパス・ヴァン・ゴッホ）など現存しているものや、再現されたものがあります。1889 年 5 月にゴッホはサン・レミ・ド・プロヴァンスにある療養院に入るためにアルルを去りましたが、その名はつねにアルルと深く結びついています。

市内にゴッホの油絵は一点もありませんが、その影は町のいたるところで感じられます。

ゴッホの足跡をたどる散策コース

アルル市内ではゴッホがイーゼルを構えた場所にそれぞれの複製画が入った案内板が置かれています。案内板の設置場所（およそ 10 か所）：フォーラム広場（夜のカフェテラス）、トランクタイユ橋（トランクタイユ橋の階段）、ローヌ河岸（ローヌ河の星月夜）、ラマルテーヌ広場（黄色い家）、ミレイユ通り（古い風車小屋）、リス大通りの庭園（公園）、エスパス・ヴァン・ゴッホ（アルルの病院の中庭）、ブックにあるアルル運河沿いの道（ラングロワの跳ね橋。なおこの橋は一般に「ゴッホの跳ね橋」と呼ばれています）。円形闘技場やアリスカンも、ゴッホの幾枚もの作品で人びとの記憶に永遠に刻まれることになりました。

アルル ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ財団美術館 LA FONDATION VINCENT VAN GOGH D'ARLES

アルル ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ財団美術館は、2014 年 4 月 7 日、レオトー・ド・ドニーヌ邸内の 2 つのフロアにまたがる 1000 m²以上の展示スペースとともにオープンしました。

アルル ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ財団は現在芸術への彼の作品が与える響きに注目しながらオランダ巨匠の芸術遺産の価値づけに没頭することを目的としています。現代アーティストとのヴァン・ゴッホ絵画展望の位置づけは疑問と熟慮に向かって豊かな会話を生むことでしょう。

財団は切っても切れないヴァン・ゴッホ作品とアルルの繋がり活発な活動の場であり、芸術や今日の絵画の話題や討論にうってつけの場所となるでしょう。

財団では下記企画展を予定しています：

- 2017 年 3 月 4 日～9 月 17 日
「アリス・ニール、モダンライフの画家 Alice NEEL, peintre de la vie moderne」展および
「平静と高揚。ビュールレ・コレクションのゴッホ Calme et Exaltation. Van Gogh dans la collection Bührle」展

35^{ter} rue du docteur Fanton – 13200 Arles - ☎ : 04 90 93 08 08 -
contact [@fvvga.org](mailto:fvvga.org) - www.fondationvincentvangogh-arles.org

アルル カマルグの中心地

ローヌ河の三角州の町

アルルはローヌ河がグラン・ローヌとプティ・ローヌに分岐する場所に位置しており、広大な湿地帯、カマルグへの玄関口として、河川交通と交易の戦略的要衝となっています。1991 年よりアルルでは海やローヌ河を航行する 3,000 トン級の船舶を迎え入れることが可能となりました。地中海の玄関口でこれだけの規模の船を寄港させることができるのはローヌ河ではアルル港だけです。なお、アルル港はローヌ河を航行する高級クルージング船が必ず立ち寄る港となっています（ローヌからアルルを経由してアヴィニヨンへ向かうクルージングなど）。アルルはまた、西ヨーロッパの二つの幹線道路（「ローヌ渓谷の道」と「イタリアとスペインを結ぶ道」）が交わる場所に位置するため、戦略的に重要な地位を占めています。

カマルグ La Camargue

カマルグは四方八方から風が吹き渡る開放的な風土をもちながらも、そこに一番強く漂うのはやはり地中海の香りです。とはいえ、ここは地中海の水だけでなく、二股に分れてこの大地をぐるりと取り囲むローヌ河の淡水の恩恵も得ています。川の滔々とした流れが一年を通じてカマルグに淡水の恵みをもたらしているのです。三角州の湿地帯は季節ごとに姿を変え、沼、ラグーン、池、沼沢は気象条件に応じて、多少なりとも塩分を含むその水を混じり合せます。ローヌ河の三角州が形成するカマルグはフランス最大の湿地帯であり、厳しい自然にさらされた大地です。ここではしばしば強烈な風が吹き、ときに洪水を引き起こす嵐に見舞われます。一方で夏にはこの風が内陸部での干ばつを招き、沿岸地帯を侵食し、塩が結晶した白い景観をつくりだしています。果てしなく続く沼や湿地、砂丘、ラグーン、人家の疎らな広大な浜——カマルグには地平線まで見渡せる風景が広がっています。1 平方キロメートルあたりの人口密度は 10 人。これはフランスの平均値の 10 分の 1 です。このように人の手の入っていない自然空間もまた、カマルグ地方自然公園が誇る宝の一つに数えられています。同公園は 100,000 ヘクタールを超える面積をもち、その海岸線は 75km にわたって伸びています。その気候条件から同公園内では稲作、葦の栽培、塩の生産といった独自の産業が発展してきました。2000 年に取得した PGI（地理的表示保護）の認証を通じて「カマルグ米」の呼称が EU 全土で守られている一方で、稲の栽培はカマルグの生態系を守る環境に配慮した切り札となっています。16 世紀から始まった稲作は 1940 年代に大きな発展を遂げました。カマルグ牛の肥育もここでしか見られないユニークなものであり、その肉は現在 AOC（原産地統制呼称）の認証を受けています。

広大な農地が広がり、かつ自然保護区が数多くあることから、カマルグはこの地を知らない人にとってはアクセスが難しい場所です。そんなカマルグを観光する最良の方法は、地元の人と同じように馬を駆ることです。カマルグ馬は非常に頑強で、とくに湿地帯で抜群の強さを発揮します。砂地を好み、海沿いの塩気の多い環境をものともせず、少ない餌で満足します。カマルグ馬は地元の多くの産業を支える天の恵みであり、ガルディアン（騎乗の牧童）の仕事には欠かせない存在です。

沿岸部では砂丘と砂浜が、絶えず変化する不安定な姿でありながらも海と大地を分かち自然の堤防を形作っています。

カマルグでは多くのサイトが一般に開放されているため、その豊かな遺産を守りながら大自然に触れることができます。サイトのいくつかでは博物学や鳥類に詳しいガイドによる発見ツアーが定期的に行われています。

カマルグ博物館 LE MUSEE DE LA CAMARGUE (10 ページ参照)

Mas du Pont de Rousty - 13200 ARLES - ☎ 04 90 9710 28 -
musee@parc-camargue.fr - www.parc-camargue.fr



ラ・パリサード LE DOMAINE DE LA PALISSADE

ラ・パリサードはグラン・ローヌ河の右岸、サラン・ド・ジローと沿岸部のあいだに 702 ヘクタールに渡って広がっています。ラ・パリサードの全体がカマルグ低地を河川水や海水から守る堤防の外側にあるため、ここは固有の動植物が見られる生態学上とても貴重な場所となっています。また、三角州の自然変遷を伝える最後の地ともなっています。かつてはもっぱら畜産業と漁業、そして狩猟に利用されていたこの地を 1976 年、沿岸保存所 (Conservatoire du littoral) が取得しました。現在では整備された道を歩いて、あるいは馬に乗ってこの地の魅力に触れることができます。また、自然を紹介する展示物が用意されているほか、ピクニックを楽しむための木漏れ日広場も設けられています。

ラ・パリサード La Palissade

BP 5 CD 36 - 13129 Salin de Giraud
 ☎ 04 42 86 81 28 - ☎ 04 42 48 82 11
palissade@free.fr - www.conservatoire-du-littoral.fr

国立自然保護区 マレ・デュ・ヴィゲラ LES MARAIS DU VIGUEIRAT

マレ・デュ・ヴィゲラは、カマルグとクローという二つの特徴的な生態系をもつ地域の境界 1,200 ヘクタールに広がるの湿原で、類まれな生物多様性を保持しています。手つかずの自然が残るこの広大な湿原は沿岸保存所がプロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール地方において取得した最大の地域であり、**2011 年 11 月に国の自然保護区に指定されました。**ここには 286 種の鳥類(およそ 20,000 羽のカモ類)と 641 種の植物が生息しています。また、カマルグ特有の「ガルディアン」と呼ばれる馬に乗った牧童が率いる牛や馬の群れにも出会えます。

一般公開されているマレ・デュ・ヴィゲラは、「エトウルノ(ムクドリ)の道 les sentiers de l'Etourneau」(家族連れ向けに杭の上にめぐらせた板張りの遊歩道)を歩いて思い思いに観光することが可能です。四輪馬車で移動するツアーや徒歩のツアーのほか、2016 年 6 月より馬でめぐるツアーも提供されています。

国立自然保護区 マレ・デュ・ヴィゲラ LES MARAIS DU VIGUEIRAT

Les Marais du Vigueirat - Mas Thibert - 13104 Arles - ☎ 04 90 98 70 91
marais-vigueirat@espaces-naturels.fr - www.marais-vigueirat.reserves-naturelles.fr



カマルグ国立自然保護区インフォメーションセンター ラ・カプリエール LA CAPELIERE

カマルグ国立自然保護区はカマルグの中心部の 13,200 ヘクタールを占め、ヨーロッパで最大の面積をもつ湿地保護区に数えられています。この地続きの広大な土地はアルル市とサント・マリー・ド・ラ・メール市にまたがっており、総合的な保全措置を通じて守られています。当保護区の特異性と遺産としての国際的な価値は、生き物の生息環境とそこに暮らす種の多様性(276 種の鳥類うち 258 種が貴重種)や、さらにはその生態系の働きから生み出されています。

カマルグ国立自然保護区インフォメーションセンター ラ・カプリエール
Centre d'information de la Réserve Nationale de Camargue
La Capelière – 13200 Arles - ☎ 04 90 9700 97- 📠 04 90 97 01 44
www.reserve-camargue.org - info@reserve-camargue.org

アルル 伝統の町

言語、民俗衣装、伝統的な祭りからアルルはプロヴァンス文化の中心地となっています。シャトーブリアン、デュマ、フローベール、メリメなどアルルを旅した著名人たちが、「世界一美しい」と称されるアルルの女性を賞賛しています。19世紀初頭に体系化されたアルルの女性の民俗衣装は、それぞれに深い意味をもつエレメントから構成されています。アルルの人びとは変化を認めながらもこのようなエレメントから成る伝統の衣装を大切に守り、次の世代へ伝えようと努めています。ガルディアン（騎乗の牧童）とアルルの民俗衣装に身を包んだ女性は、アルル地方の季節を刻む伝統行事に欠かせない存在となっています。

アルルとその近辺の村々の暮らしにアクセントをつけているのがカマルグ式闘牛（クルス）です。闘牛は毎年 4 月初めから 10 月末まで開催され、多くの闘牛ファンを魅了しています。カマルグ式闘牛の歴史は古く、その起源は 1402 年にまで遡ります。もっとも格式の高いコカルド・ドールとトロフェ・デ・ザスが開催される日は、ラストゥール（闘牛士）や興行師、そしてとくには主役であるカマルグ雄牛にとって栄光の日となります。円形闘技場ではスペイン式闘牛（コリダ）も盛大に行われており、アルルはフランスにおける闘牛の中心地となっています。

主な伝統の祭り

馬のレース クルス・ド・サタン La Course de Satin

クルス・ド・サタンが初めて開催されたのは 1529 年のことです。

アルル祝祭委員会ではカマルグ種の最高馬のみを集めたこのレースを保全することで古くからある伝統を後世に残そうとしています。レースは鞍なしの騎乗で争われます。

優勝者には名誉ある金糸の刺繍がついたサテンの巻き布が授与されます。なお、古い時代の巻き布の一枚がアルラタン博物館に展示されています。

優勝者は一年間、この巻き布を保管し、もし続けて三回勝者となれば、それをみずからの所有物とすることができます。

牧童祭 La fête des Gardians

毎年 5 月 1 日に牧童祭が開催されます。まずは「ガルディアン」と呼ばれるカマルグ版カーボーイがアルル市内のリス大通りに集結し町をパレードします。一行はそのままフォーラム広場へ向かいフレデリック・ミストラルの銅像に挨拶します。その後、ガルディアンたちがマジョール教会に建つ騎乗姿の聖ジョルジュ像を取り囲むと（聖ジョルジュは牧童の守護聖人）、プロヴァンス語による大ミサが執り行われます。午後には円形闘技場でさまざまな催し物が開催されます。1512 年に創設され、2012 年に 500 周年を迎えた牧童信心会は現存するフランス最古の互助組合となっています。

「アルルの女王」の選出 L'élection de la Reine d'Arles

1930 年より、アルルの女王は三年に一度、5 月 1 日に選出されます（第二次世界大戦中は中断）。

第 23 代女王は 2017 年 5 月 1 日に複数の候補者のなかから選ばれることになっています。女王となる若い女性を決める方法は 1930 年にアルル祝祭委員会により制定され、いくつかの改定を経て現在に至っています。女王はプロヴァンスの文化、伝統衣装、言語の守り手としての役割を果たすことが求められます。

その「戴冠式」は 7 月初めに開催されるアルル祭りの際に古代劇場で行われることが慣例となっています。

アルル祭り Les fêtes d'Arles



- ペグラード La Pegoulado : 衣装祭りに先立つ金曜日の夜、伝統的な衣装を着た1,000人以上の参加者が長い行列をつくりアルル市内のリス大通りを練り歩きます。
- 衣装祭り La fête du Costume : 7月の第1日曜日に開催。民俗衣装を着た人びとが市内を練り歩いたのち、古代劇場に集結します。
- カマルグ式闘牛「ラ・コカルド・ドール La cocarde d'or」 : レースは衣装祭りの翌日(月曜日)に開催されます。闘牛シーズン最大の花形イベントで、カマルグ式闘牛のなかでももっとも格式の高いものです。

初穂祭 Les fêtes des prémices du riz

毎年夏の終わりになると、アルルはこの地方の重要な経済活動にちなんだイベント、つまり初穂祭を開催します。そうして米の収穫の直前に、この世界中で栽培されている穀物を讃えるのです。地区、村、団体、家族ごとに稲穂で飾った山車を準備し、9月の初めの土曜日の夜と日曜日の朝に通りを練り歩きます。

春の闘牛 La Feria de Pâques

春の闘牛(復活祭の闘牛)はフランスの闘牛シーズンの幕開けを告げるイベントです。このお祭りを楽しむためにおよそ 50 万人がアルルを訪れ、6 万人が円形闘技場で闘牛を観戦します。会期中は市中心部のいたるところがお祭り騒ぎで盛り上がります。30 軒ほどのボデガ(ワイナリー)がオープンするので、闘牛が終わるや熱烈なファンがそこに集まり、サングリアを飲みながら夜を楽しみます。さらに、闘牛ファンのグループや音楽バンドらが円形闘技場の周辺や市内の各所で祭りを賑やかに演出します。

初穂の闘牛 La Feria du riz

カマルグ・グルマンド Camargue gourmande

初穂の闘牛は9月の第2週末に実施されます。

2005 年 9 月よりこの闘牛は、カマルグ米とアルルの特産物(オリーブ、オリーブオイル、ソーセージ、AOC に認証された牛肉、カマルグの塩、アルル地方の工芸品、カマルグの稲藁からつくった紙など)とアルルの工芸品(カマルグのブーツおよび鞍、米を原料とする塗料など)を紹介するフードフェスティバル「カマルグ・グルマンド」および馬フェスティバルと合同で開催されています。馬フェスティバルでは土曜日の夜、円形闘技場で無料のショーを実施します。

プロヴァンス地方のクリスマス

クレーシュ la crèche とサントン人形 les santons

サントンとはプロヴァンス語で「santoun」、すなわち「**小さな聖人**」を意味し、職人が愛情を込めて手作りした陶器の小さな人形を指します。

サントン人形はクリスマスを祝うために飾られるクレーシュの中央に飾られ、プロヴァンスの伝統と人びとや家族の暮らしを末永く後世へ伝える役割を果たしています。家庭のクレーシュではもともと、キリスト降誕にまつわる登場人物、つまりマリア、ヨセフ、神の御子イエス、そして東方の三博士だけしか飾りませんでした。

しかし**プロヴァンス地方のサントン職人**は、マルセイユの庶民が古くから従事してきた伝統的な職業や「パストラル」に登場する人物をヒントに人形をつくるようになりました。

職人は細部やポーズにとくにこだわりながら丹精込めて人形をつくっています。一つとして同じものがない緻密な造りから、人形には作り手それぞれの個性が反映されています

毎年2か月間、**国際サントン人形見本市**がサン・トロフィーム教会の回廊にて開催されます。

2014年11月15日～2015年1月14日、100以上の出展があり、18～21世紀初めまで、300年4世紀にまたがるサントン人形とサントン職人の発展や歴史などがわかります。出展者はプロのサントン職人ですが、アマチュアの方が作ったサントン人形のコンクールも開かれます。

アルルは、エスパス・ヴァン・ゴッホにて**2014年11月15日、16日**に、この**国際サントン人形見本市**のオープニングセレモニーを行います。41名のアーティストがたくさんのイベントを用意しております。制作ワークショップ、鋳造物、絵付け、デモンストレーション、音楽、コーラスなど。

9時～19時まで入場無料。

アルルのサントン工房の見学:

エヴェリーヌ・リコール Evelyn Ricord : サントン人形彫刻クリエイター。陶製サントン人形の分野でフランス国家最優秀職人賞受賞。

6, Rue du Refuge - 13200 Arles - 06 24 61 71 69 - Uniquement sur RV.

サントン・アンリ・ヴゾル Santons Henri Vezolles : 各パーツをバラバラに制作し、あとで組み立てる造り方。自然な風合いの2～4色と酸化物による着色。装飾はスリップ(液状の粘土)にて。

14, Rond-point des arènes - 13200 Arles - 06 80 34 27 77

アルル 祭りと文化の町

アルルはそのロケーションから文化の十字路口に位置します。この町はつねに音楽、写真、文学などあらゆる分野のクリエイション活動において地中海の文化を取り入れてきました。アルルはまた、音楽グループのジプシー・キングスやチコ&ザ・ジプシーズ、ファッションデザイナーのクリスチャン・ラクロワ、作家のイヴァン・オドゥアル、写真家のルシアン・クレルグの町であり、さらには世界最大の写真イベント「アルル国際写真フェスティバル」や、出版社「アクト・シュド」やレコードレーベル「アルモニア・ムンディ」の町でもあり、作家、クリエイター、アーティストにとってインスピレーションが掻き立てられる居心地のよい場所となっています。

アルルでは地域ごとの、あるいは国内規模、国際規模の文化イベントが多数開催されています。

アルル国際写真フェスティバル Les RENCONTRES d'ARLES 7月/8月/9月

1969年に創設されたこのフェスティバルによって、カンヌが映画の町とされているのと同様、アルルは写真の町として知られるようになりました。当フェスティバルは何よりも現代的でバリエーションに富んだ芸術プログラムを特徴とし、毎夏、アルル市内にある20の歴史的サイトで60ほどの展覧会を開催しています(展示面積は15,000 m²)。7月初旬のオープニング週間では数々の展示イベントのほか、古代劇場にて映写会やスペクタクルの夕べも催されます。

当フェスティバルは現在、教育・研修活動でも有名で、とくに写真の変遷や写真の現代的課題をめぐるシンポジウム、会議、討論会、ガイド付き鑑賞会、世界的識者による作品集の解説、著名な写真家によるワークショップなどを行っています。また9月の新年度シーズンには「写真で新年度 la Rentrée en Images」と題した一日を設け、小学生からグランドゼコール予備学校の生徒まで7,500人を対象に教育的ワークショップを開催し、写真の鑑賞法を手ほどきします。

www.rencontres-arles.com

国立高等写真学校 L'ECOLE NATIONALE SUPERIEURE DE LA PHOTOGRAPHIE

1982年、円形闘技場通り rue des Arènesにある壮麗なキラン・ド・ボーリュ邸内に国立高等写真学校が開校しました。これは写真を専門とするフランスで唯一の国立高等学校です。マルク・バラニ設計による5,000 m²の新しい校舎は、リュマ・キャンパスの向かい側のパルク・デ・ザトリエに2018年完成予定です。

www.ensp-arles.fr

当学校と国際写真フェスティバルを通じて、アルルで写真関連の先駆的な試みが数多く誕生することとなりました。

2001年より毎年、アルルではヌード写真フェスティバル le FESTIVAL DE LA PHOTO DE NU も開催されています。当フェスティバルではヨーロッパの写真家たちの作品を紹介する展覧会を開催するほか、毎回アルルの写真家一名をゲストに招きます。

マヌエル・リヴェラ=オルティス財団 (LA FONDATION Manuel RIVERA-ORTIZ)

マヌエル・リヴェラ=オルティス財団は、2010年にマヌエル・リヴェラ=オルティスによってニューヨークを本部に、パリ、チューリッヒおよびアルルに設立された非営利の財団です。写真とドキュメンタリーフィルム of 普及を目指し、新鋭写真家や映像作家の支援と普及活動を行い、世界で過小評価されている

コミュニティに光を当て、社会的言説を積極的に行っています。さらに、奨学金、出版や製作上映、教育プログラム、展示会を通じて写真家と映像作家の作品を支援し、フェスティバルの際にはアルルのこの邸宅から世界へ向けて発信しています。

マヌエル・リヴェラ=オルティス財団

Fondation Manuel Rivera-Ortiz - 18 rue de la Calade - 13200 Arles <http://mrofoundation.org/>

レ・シュッド・ア・アルル

Les SUDS, à ARLES.

ワールドミュージックフェスティバル

7 月第 2 週

200 人を超えるアーティストを迎え、朝 10 時から翌朝 4 時(！)まで繰り広げられるフレンドリーな音楽フェスで、会期中の 1 週間は町がフランス内外の音楽に満たされます。このときばかりは古いアルルの町並みが新しい異国の雰囲気をもと、訪れた人を市内の音楽ステージからローヌ河岸で開かれるアペロ・デクーヴェルト(飲み物を片手にアーティストやファンが交流する催し)へと誘います。

そのほかフェスティバルでは、エスパス・ヴァン・ゴッホのアーケードの下での音楽を聴きながらのシエスタ、県立アルル古代博物館で音楽について語る「サロンド・ミュージック」、木陰が心地よい広場で開催されるコンサート、美しい大司教館の中庭で内省的な音楽に耳を澄ます「大切なひととき」、星空の下、古代劇場で行われる壮大なコンサート「ソワレ・シュッド」、工場跡地に設けられたパルク・デ・ザトリエの不思議な空間で繰り広げられるコンサートビデオのライブショーなどが楽しめます。また、歌や音楽、ダンスのワークショップやプロレベルのレッスンなども行っており、違ったアプローチからフェスティバルに参加することも可能です。 www.suds-arles.com



音楽フェスティバル レ・ゼスカル・デュ・カルゴ Les ESCALES du CARGO

この音楽フェスはクラブ「カルゴ・ド・ニユイ」のコンサートホールの誕生 10 周年を記念し、クラブのプログラムを拡大する形で 2005 年夏に始まりました。この 5 年間、当音楽フェスでは 7 月末に当代きってのミュージシャンを古代劇場で集めてコンサートを開催しています(古代劇場はまさに最高の音楽を聴くための魅惑の屋外ステージです！)。当フェスティバルには過去に、ベナバール、ゴタン・プロジェクト、カリ、レ・リタ・ミツコ、カミーユ、マッシヴ・アタック、ヤエル・ナウム、キャラバン・パレス、ピート・ドハーティ、ヒュー・ローリー、ラ・ファミーユ・シェディットなどが参加しました。

次回のフェスティバルのプログラムについては www.escales-cargo.com をご参照ください。

古代ローマ祭り「アルラーテ ARELATE」と

スペクタクル史劇フェスティバル le FESTIVAL du film PEPLUM

8 月最後の一週間、アルルが「アルラーテ」と呼ばれていたかつての古代ローマ都市に早変わりし、ガリア・ローマ時代の歴史を振り返ります。円形闘技場での出し物、戦車競走、大道芸、ローマ軍の野营地やローマの居酒屋の再現、スペクタクル史劇映画の上映といった各種イベントを通じて、ありとあらゆる人びとを古代ローマの世界へと誘います。

祭りの一環として、一週間の会期でスペクタクル史劇映画祭も開催されます。映画祭では古代劇場という特別な場所で大画スクリーンに映し出される作品を楽しめます。

プロヴァンス特産物の見本市 プロヴァンス・プレスティージュ PROVENCE PRESTIGE

11 月最後の週末に 5 日に渡って開催。

クリスマスシーズンを前に、この見本市ではプロヴァンス地方のライフスタイルをテーマに、この地方でつくられたものを集めて一般に紹介しています(テーブルアート、陶器、工芸品、装飾品、ガストロノミー、ワイン、オイル、米、砂糖菓子など)。

各スタンドはオークル、黄色、ワインレッド、緑といったプロヴァンスを象徴するさまざまなニュアンスの色をバリエーション豊かに組み合わせられて飾られます。スタンドは食品を扱うものであれ、装飾雑貨や衣類を扱うものであれ、いずれもクリスマスシーズンの家々のように飾りつけられ、毎年 3 万人以上の来場者を魅了しています。

また、その道のプロたちが大勢集まり、ワークショップや試食会や試飲会などを通じて見本市を盛り上げます。

11 月なのにクリスマス気分が味わえる——それがプロヴァンス・プレスティージュです！

www.provenceprestige.com

大道芸フェスティバル ドロール・ド・ノエル DROLES DE NOELS

2004 年にアルル市が創設した「ドロール・ド・ノエル」は、年末のパーティシーズンを大いに盛り上げる大道芸のフェスティバルです。幻想的で夢想的、詩的でとてつもない、サンタクロースが私達をひどい目に合わせるようなちょっぴりいかれた国！約 15 の一座によるおよそ 100 の無料のショーやイベント(サーカス、マリオネット、歌、マジック、音楽ゲーム、物語とハイライト)が市内各所で 4 日間に渡って開催されます。

www.droles-de-noels.fr

大道芸フェスティバル ドロール・ド・カルナヴァル DROLES DE CARNAVALS

2002 年よりアルル市は、春の訪れとカーニバルを祝うため、大道芸フェスティバルを開催しています。催し物：大道芸、巨大なマリオネット、ダンス、音楽、サーカス楽団、仮装の有無にかかわらず大人も子供も参加できる伝統的なパレード。

アルル 暮らしのアートが光る町

年間 300 日以上の日照日に恵まれるアルルは暮らしやすい南仏の町。その特別な陽光が生活の質を大いに高めています。

太陽が顔を出すや、アルルっ子や避暑客たちはリス大通りや歴史地区のたくさんの広場に設けられたカフェテラスに陣取ります。土曜日のマルシェはもはや恒例行事となりました。アルルの市はプロヴァンス屈指の美しさを誇るのと同時に、2km にもわたって続く最大規模のもので、野菜や果物はもちろん、チーズや肉、魚その他の生鮮食品、花、スパイス、蜂蜜、美味しい特産物のほか、服や靴、布地、工芸品までありとあらゆるものが売られています。

2017 年主要イベントカレンダー

1 月

国際サントン人形見本市(15 日まで) - 会場: サン・トロフィーム教会の回廊

3 月

アルル ワインとグルメのサロン Salon du vin et des gourmets (3 月 4・5 日)

– 会場: ジムナズ・ジャン=フランソワ・ラムール gymnase J.F. Lamour www.salonduvin.com

企画展「アリス・ニール、モダンライフの画家 Alice NEEL, peintre de la vie moderne」

(3 月 4 日~9 月 17 日) - 会場: アルル・ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ財団美術館

www.fondation-vincentvangogh-arles.org

ドロール・ド・カルナヴァル Drôle de Carnaval (3 月 12 日) - www.arles.fr/carnaval.com

4 月

聖週間 Semaine Sainte (4~9 日)

エスパス・トロ Espace Toro (9 ~13 日) - 闘牛のイベント(ショー、ワークショップ、展示など)

春の闘牛(復活祭の闘牛) Feria pascale (14~17 日) - www.arenas-arles.com,

5 月

牧童祭 La Fête des Gardians(1 日) - 第 22 代「アルルの女王」の選出

ヌード写真フェスティバル Festival Européen de la Photo de Nu - www.fepn-arles.com

ジャズ・イン・アルル Jazz in Arles (3~13 日) ル・メジャン・シャペル - www.lemejian.com

6 月

企画展「古代ローマ人の贅沢 le Luxe dans l'Antiquité」(6 月 30 日~2018 年 1 月 22 日) -

会場: 県立古代アルル博物館 www.arles-antique.cg13.fr

アルルの祭典 Les Fêtes d'Arles (6 月 30 日~7 月 3 日)、衣装パレード「ペグラード Pegoulado」(30 日)

7 月

アルル祭り - 衣装祭り(2 日)、カマルグ式闘牛「ラ・コカルド・ドール la Cocarde d'Or」(3 日) - www.festivarles.com

アルル国際写真フェスティバル Les RENCONTRES d'ARLES (3~9 日) - 企画展(7 月 3 日-9 月 24 日) - www.rencontres-arles.com

ワールドミュージックフェスティバル レ・シュッド・ア・アルル Les Suds à Arles (10-16 日) -

会場: 古代劇場 - www.suds-arles.com

音楽フェスティバル レ・ゼスカル・デュ・カルゴ Les ESCALES du CARGO (7 月末) -

会場: 古代劇場 - www.escales-cargo.com

8 月

古代ローマ祭り「アルラーテ ARELATE」(8 月最後の一週間) - www.festival-arelate.com

スペクタクル史劇フェスティバル le FESTIVAL du film PEPLUM -

www.festivalpeplum-arles.com

9 月

エスパス・トロ Espace Toro (3~7 日) - 闘牛のイベント(ショー、ワークショップ、展示など)

初穂の闘牛 La FERIA du Riz(10 日) - カマルグ・グルマンド Camargue Gourmande (8~10 日)

www.arenas-arles.com

初穂祭 Les Fêtes des Premices du Riz (15 ~17 日)

10 月

デジタル・オクトーバー Octobre Numérique -

www.octobre-numerique.fr.

11 月

プロヴァンス・プレスティージュ - プロヴァンス地方のライフスタイルをテーマにしたイベント -

会場: パレ・ド・コングレ

第 5 回「国際サントン人形見本市オープニングセレモニー」(18~19 日) - 会場: エスパス・ヴァン・ゴッホ

国際サントン人形見本市(11 月中旬~1 月中旬) - 会場: サン・トロフィーム教会の回廊

12 月

ドロール・ド・ノエル DROLES DE NOELS(21~24 日) - 大道芸フェスティバル

<http://www.drole-de-noels.fr>

アルル 経済の町

アルルの土地の 75%は農業に使用されています。しかしその一方で多くの企業や企業家がアルルに本拠地を置いています。その理由は「地理的に、あるいは財政上有利だから」、「この町に愛着があるから」などさまざまです。これらの文化産業とデジタル産業は、アルルの地に活気を与え、未来へと導いています。アルル地方商工会議所 *la CCI du Pays d'Arles* の調査によれば、文化経済(文化および遺産)は 4,000 人の雇用を創出しており、これはアルル地方の労働人口の 20.4%にあたります。

地方分権化の成功事例／アクト・シュッド社 ACTES SUD

1983 年にユベール・ニサンがパリから 800km 離れた場所に自身の出版社の本拠地を構えたとき、出版人の多くが否定的なコメントを口にしました。それから 25 年。アクト・シュッド社はこれまでに出版を希望する人から 6 万点もの未発表作品を受けとり、5,000 点の著作物を刊行しています。年間では 350 タイトルを発刊しており、現在 100 人ほどの従業員を抱えています。同社は年間を通じた音楽プログラムの提供や宗教音楽祭 *festival de Musique sacrée*、ジャズフェスティバル、アルル読書祭 *les Lectures en Arles* といったイベントの開催あるいは協賛に力を入れており、ここ数年でアルルの文化シーンを支える大黒柱となりました。

知的遺産を後世に伝えるテクノロジーを提案／ 図書保存センター(CCL)と図書保存地方間センター(CICL)

本やデッサンや図面をはじめとする図書資料は歳月に抗えない脆弱な媒体であり、つねに劣化や破損の危険にさらされています。図書保存センター *Centre de Conservation du Livre (CCL)* と図書保存地方間センター *Centre Interrégional de Conservation du livre (CICL)* は、この大切な遺産を保存する方策をいくつか提案しています。CCL は鑑定を実施し、図書保全についての意識の向上を図り、この分野のプロたちに保全技術を指南しています。CICL は図書を修復したり、紙媒体をマイクロフィルム化あるいはデジタル化したりする技術全般を提案しています。この CICL の活動には予防的な保全措置も含まれており、当センターには図書館や古文書を保管しているさまざまな機関から関心が寄せられています。現代のテクノロジーを通じて、世界の図書遺産の保護と保管を担う巨大な市場を対象とした各種アプリケーションがいかんにして生み出されたのか——CCL と CICL はその疑問に答える例証となっています。

文化と遺産の産業拠点 POLE INDUSTRIES CULTURELLES ET PATRIMOINES

この産業拠点は、商工会議所、国およびアルル市によるプロジェクトで、地域と地域の持つ遺産と文化の活用のすべての段階に切れ目なく関わることで、関わる人びとに实际的な統合と発展をもたらすツールです。

今日このダイナミックなネットワークには、文化と遺産(建物と文化の遺産、環境遺産と景観の管理、画像、マルチメディア、ショーやイベント)の活用や保存、配信、伝達に精通した約 100 人の関係者が結集しています。

<http://www.industries-culturelles-patrimoines.fr/>

アルケオメッド ARCHEOMED®

アルケオメッドは、文化と遺産に関わる企業のための経済と産業のプラットフォームとして、2015 年 1 月 1 日、アルルのセブラン道路 17 番地に設立されました。文化と産業遺産の拠点 Pôle Industries Culturelles & Patrimoines の手ほどきを受けながら、活動の発展と相互扶助という目的のもとに企業が集まっています。

アルケオメッドの活動は下記の通りです：

- 共有、交換と協力する企業を迎える場所
- ワークスペースの共有
- 最新の設備と技術装置の提供
- リソースセンターと専用のサービス
- ノウハウと専門知識のネットワーク

<http://www.industries-culturelles-patrimoines.fr/archeomed/>

3D の学校／MOPA(モーション・ピクチャー・イン・アルル)

MOPA (Motion Picture in Arles), l'école de la 3D

2000 年、アルルにあるフランス国鉄 (SNCF) の旧作業所内に開校したコンピューターグラフィック高等専門学校 L'école SUPINFOCOM は、2015 年 MOPA になりました。2000 年当時授業の一環で製作していた 30 分の映画が、今では 3 時間の 3D 映画製作となり、これまでに 195 名の生徒によって 80 本の映画が製作されてきました。

<http://www.ecole-mopa.fr/mopa-ecole-animation/>

リュマ財団の芸術研究センター／リュマ・アルル LUMA ARLES

リュマ・アルルは、学際的な展示やプロジェクトを発展させるために、さまざまな分野から芸術家や研究者、クリエイターが結集する新しい実験的な文化複合施設です。

パルク・デ・ザトリエ・プロジェクトの目玉となるのが、フランク・ゲーリータワーです。このタワーには、研究設備、図書館、アトリエ、セミナースペース、アーティストのスタジオと展示スペースが入居予定です。15,000 m²の土台ベースと、計 9,000 m²のプラザとガラスのロンドから成る芸術的なリソースセンターで構成されるこの施設は、2018 年にオープンします。

<http://luma-arles.org/luma-arles/>



アルルに滞在する

宿泊施設とレストラン

- **ホテルの数は 47 軒。**うち 3 軒は 5 ツ星です。(アルル市の中心部にあるパルティキュリエ・ホテル L'Hôtel particulier とジュール・セザール・ホテル Jules César、カマルグの中心部にあるマ・ド・パン・ホテル Hôtel Mas de Peint)
- **ペンションは約 250 軒。**アルル市内中心部、カマルグ、クロー、アルピーユ山脈に点在しています。

観光案内所 HP からのオンライン予約 : <http://reserver.arlestourisme.com>

- **キャンプ場は 5 か所。**うち 3 か所は三ツ星です。サイト総数 510.
- **レストランは 150 軒以上。**プロヴァンス料理、バスク料理、ブルターニュ料理、リヨン料理、フレンチの伝統料理のほか、オーガニックやベジタリアン、さらにはアンティル諸島、アジア、スパニッシュ、イタリアン、オリエンタルなどの世界各地の料理やハンバーガーおよびスナックなど多彩な料理が食べられます。

さらにミシュランの星を獲得したレストランも 2 軒あります：

- **ラ・シャサネット La Chassagnette d'Armand Arnal** - 
(2016 年版ミシュラン 1 ツ星)
カマルグの真ん中にある広大な菜園果樹園に囲まれたかつては羊小屋だった建物。シェフのアルマン・アルナルは季節に応じた菜園の野菜に沿ったメニューを開発しています。
- **ラトリエ・ド・ジャン＝リュック・ラバネル L'Atelier de Jean-Luc Rabanel** 
(2016 年版ミシュラン 2 ツ星 — 2009 年より継続して獲得)
ラトリエは、2013 年よりレストランガイド『ゴー・ミヨ』で 5 つのcock帽を獲得し続けています。今日までにこの「極上の店」の称号を授与されたのはわずか 16 テーブルです。
ラトリエの兄弟店ル・ビストロ・ア・コテ le Bistro A Côté も 2 つのcock帽を獲得し、カルム通りで計 7 つのcock帽を獲得したことになります。
7 つのcock帽は、シェフ界の末っ子ジャン＝リュック・ラバネルのダイニングルームに特別に捧げられています。

また、2 軒のレストランがフランス料理店協会 (AFMR) から**名レストラン**の称号を授けられています。この称号は定評のある優れた技能をもち、新鮮で未加工の食材だけを使用しているレストラン業者を認定し、その価値を高めようとする国と業界の共通した意志から生まれたものです。

L'Estrambord au Sambuc (レストランボー・オ・サンビュック)

Le Flamant Rose à Albaron (ル・フランマン・ローズ・ア・アルバロン)

アクセス

マルセイユ・プロヴァンス空港より

- シャトルバス「エアポート・トレイン」: 空港とヴィトロール駅を 5 分で結んでいます。切符は空港の窓口で購入可能。
<http://www.marseille.aeroport.fr/acces-et-parking/acces/trains>
- タクシー: 7 時～19 時は約 140 €、19 時から 翌 7 時は約 175 €
- 車: レンタカーサービスあり。

- パリから TGV(高速鉄道)にて (746 km) :
 - TGV アヴィニオン駅: 約 90 €、所要時間は 2 時間半～3 時間
 - 1 日 2 本の TGV 直通便あり
- マルセイユから(90 km) :
 - 鉄道: www.sncf.fr: 片道約 15 €、所要時間は 約 1 時間
 - タクシー: 7 時～19 時は約 165 €、19 時～翌 7 時は約 210 €
- アヴィニオンから (40 km):
 - 鉄道: www.sncf.fr: 約 9 €
 - タクシー: 7 時～19 時は約 67 €、19 時～翌 7 時は 85 €
- ニースから (250 km) :
 - 鉄道: www.sncf.fr: 約 50 €、所要時間は 3 時間 30 分～ 4 時間
- トゥールーズから (314 km):
 - 鉄道: www.sncf.fr: 約 50 €、所要時間は 3 時間 30 分～ 4 時間

観光案内所についての更なる情報に関するサイト:www.arlestourisme.com

レスパス・プレスでは、著作権フリーの写真およびプレス用ドキュメントへのアクセスを提供しています。

観光案内所は年間 363 日オープンしており、さまざまなサービスを提供しています: ,

- パス・モニュマン、ハイキング・シートおよびガイドブックの販売
- 街発見のためのオーディオガイドの貸し出し
- コンサートとスペクタクルのチケット予約
- ガイド付きツアーやエクスカーションへの申し込み
- 地元の製品やテーマ別製品のショッパ

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - f.riou@arlestourisme.com

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71